

沖縄戦を通して、平和について考える

今年は沖縄本土復帰 50 周年の年です。この節目の年に、改めて平和について考えてもらいたいとの思いから、2 年生では、沖縄戦について学び、「さとうきび畑の唄」という映画を鑑賞し、森山良子さんの「ざわわ」の唄に込められた思いを知るという平和学習を行いました。

感想の中には、

「沖縄戦について、あまり知らなかったから、そんなに悲惨でたくさんの方が亡くなっているとは思わなかった。やっぱり戦争はいけないなと思った。」

「こんなことがあった戦争のことを後世に伝えていかなければならないと思う。」

「命を大切にしたい。」

「自分は戦争を経験したことがないけれど、映像を見てなんか悲しい気持ちになりました。」

「他人ごとにせず、今自分がいきれていることがすごくありがたいことだと思わないといけないなと思いました。」

「戦争は誰も得なんかしないし、何も良いところがないのに、なぜ今もあるのか？マジでなんでやるんかなと思う。話し合いでできればいいと思うけど、武器を使って、戦うのはおかしい。」

「私は今日沖縄戦にすごく興味を持ったため、自分で調べてそれをまとめたりして友達とか身の回りの人に伝えていきたい。」

「はやく、全世界に平和が訪れて欲しいし、二度と戦争は起きて欲しくないと思います。」

「今日の学習で、知らないことがたくさんあったので、もう少し世の中を知ろうと思ったし、つらいことがあったんだよと伝えていけるよ言うにしたいと思いました。」

「詩の歌詞に「うわべだけの付き合いやめて。」や「武力を使わずに。」などがあり、感動しました。」

「沖縄の戦争のことは知っていたけれど、細かな歴史や 6 月 23 日の存在を知ることができ、これは他人事だと思っちゃダメだと思ったし、これが 70 年近くしかたっていない出来事なんだと思うと、やっぱり改めてびっくりしました。」

「戦争は絶対に忘れてはいけないし、もう二度と起きてはならないことだと改めて思いました。今の私たちが生きているのは日本人の人が頑張って生き続けて生き延びてくれたからであって、凄く感謝しなければならないことだと思った。自分に、私たちにできることは何か？考えようと思いました。」

「今の戦争が起きていない生活が一番幸せで平和なんだと思った。」

47 期生が、真剣に平和について考えてくれていることが伝わってきました。これからも、みんなが平和について考えていければいいなと思います。



NO IMAGE



NO IMAGE